

屋根葺きの カネを集める伝統的首長

ミクロネシアの島嶼国家、パラオ共和国。アバイと呼ばれる伝統的集会所は、かつて首長たちが寄り合いをおこなう場であった。植民地期から国家形成期にかけて、首長たちはカネ集めに奔走する。

アバイと伝統的首長

石畳の上に建つ伝統的集会所、アバイ。パラオの伝統を体現するこの切妻造りの建築物は、奥行きが約二メートルもあり、破風（正面の装飾板）や梁（屋内の水平の柱）には、神話や伝説をモチーフにした彫刻、装飾が色鮮やかに施されている。

かつて、アバイには、集落の伝統的首長が寄り合いをおこなうものと、村落の若者が寝泊まりするものがあった。前者は、通常一〇人いた集落の首長たちに帰属し、首長の序列に応じて座順や使用する出入り口が定められていた。また、新築・改築する際に、首長たちがどの部分の骨組みや葺き屋根を負担するのかも、序列に応じて定められていた。

ところが、一九世紀末以降の植民地統治過程で、首長たちが寄り合いによって政治を運営する機会は失わ

れた。これに伴い、多くのアバイは消滅していった。現在では、国立博物館に移設されたものも含めて、伝統様式のアバイは、わずか数棟だけである。集落のアバイが新築・改築されたとしても、地方政府の資金で近代様式に建てられることが多い。それでも、伝統的首長は、近代国



屋根葺きのカネの支払いに集まった人たち

家のなかで一定の権威を保持しており、伝統文化の番人としての役割を果たすこともある。わたしはフィールドワークの最中に首長が、伝統様式のアバイの修繕のために、屋根葺きのカネを集める場面に居合わせた。

屋根葺きのカネ集めに参加して

二〇〇九年九月、アイライ州のある集落の首長R（七〇代、男性）から、宴への招待状がわたしののもとに届いた。この宴は、アバイの屋根の葺き替えの費用を集めるとともに、かれの自宅の改築費用を集めるために計画された。前者は、屋根を意味するパラオ語にちなんでロス、後者はハウスパーティーとよばれている。ロスは、伝統領域に属する事柄であり、他の集落の首長とともに、首長Rにも修繕の割り当てが定められた。招待状には、屋根葺きには一万一

いたかしんご
飯高伸五
日本学術振興会特別研究員PD（筑波大学）
専門は社会人類学、オセアニア民族誌学。ミクロネシアにおける植民地経験、現代の土地訴訟と伝統的知識の関係を研究テーマに、パラオでフィールドワークを実施している。



千米ドル、自宅改築には一万三千三百五〇米ドルを要したと明記されていた。この多額なカネを集めるために、氏族の成員が広く参加を求められた。首長Rと同じ氏族に属するEさん（八〇代、女性）の家に居候していたわたしは、Eさんとその娘二人とともに宴に参加することになった。宴といっても形式はほとんどなく、午前一時ころから午後三時ころまでのあいだ、ばらばらと首長Rの家に人びとが集まり、タロイモや豚肉



石畳の上に建築中の近代様式のアバイ(オギワル州)



家のなかで歓談する人たち。奥では首長が見守るなか、カネ勘定がおこなわれている

の入った弁当を受け取り、食事と会話を楽しみ、カネを支払って帰って行くというものである。首長Rは、この日のために豚を屠殺させるなど、参加者の食事の準備に追われる。支払われるカネには、パラオの通貨である米ドルと、トゥルクとよばれるべっ甲皿の伝統貨幣とが使用される。多くの参加者は、家の外に置かれた椅子やベンチに腰掛けているが、家のなかには首長Rの家族と氏族の年長女性が控えており、会計係が集まったカネを勘定している。

どれだけのカネが集まったか？

パラオでは、出産儀礼や葬儀、家の新築・改築祝など、現在では日本語からの借用語でシュールカンと総称される機会において、カネの支払いを怠るべきでないと考えられている。Eさんは、すでに夫を亡くしており、決して経済的な余裕があるとはいえない。それでも氏族のなかで最年長の女性で、首長Rとのつながりも深い。そのため、支払いの責任がある。Eさんは、現金一〇〇米ドルとべっ甲皿一枚を支払った。個人の支払いとしては、そうとう高額であった。

わたしとEさんの娘たちが支払った金額、当日はつこうで来られなかったEさんの息子から預かった金額は、いずれも二〇米ドルから四〇

米ドルであった。なかには五米ドルで支払いを済ます者もいれば、親子あるいは兄弟姉妹であわせて五〇〇米ドルも支払う者もいた。集められたカネの明細は、丹念に大学ノートに記入され、宴の終わりに首長Rに報告された。ノートは、支払いの記録として、しばらく大事に保管される。

近代国家のシンボル

この日、個人、親子、兄弟姉妹など合計七四の名義で集められたカネは、総額五七〇〇米ドルとべっ甲皿四枚にもおよんだ。この時点では、まだ必要な金額には遠くおよびなかつたが、パラオの所得水準を考えれば、これは大金である。後日に支払った者や、海外から送金した者もいたので、総額はまた増えている。首長の呼びかけに応じて、着々と多額のカネが集められていったのである。



支払いにあてる米ドルとべっ甲皿を確認する

パラオ共和国の立法、行政、司法の各機関の公式ロゴは、どれもアバイをモチーフにしている。アバイは、もはや首長の寄り合いの場ではなくなつたが、近代国家の文化的シンボルとして重要な意味を担っている。ここで取り上げたアイライ州のアバイもまた、パラオの名所のひとつとして観光ガイドにも掲載され、国家の歴史保存プログラムでは史跡に指定されている。州政府も、アバイの修繕のために、予算を組んでいる。